

## 2025年度グローバル人材育成プログラム科目一覧

科目群	科目名	担当者	開講キャンパス	開講期	曜日	時限	単位数	配当年次	備考	
<b>異文化理解・国際協働科目群</b>										
	日本社会・文化理解講座	仲谷 ちはる	和泉/メディア授業科目 ※ハイブリッド科目	秋	火	4	2	1~4	・メディア授業併設 ・WEB履修登録対象	
	明治大学アセアンセンター講座	タンシリトンチャイ, ウィライラック	メディア授業科目	春	木	5	2	1~4	・メディア授業 ・WEB履修登録対象 ・履修定員：春秋各15名 ・履修希望者が定員を超えた場合、初回授業内での課題の結果により履修者を決定。 ・初回授業出席必須。	
			メディア授業科目	秋	木	5				
	Meiji Active Global Intercultural Collaborative Learning (MAGIC-L)		横川 綾子	和泉	秋	水	5	2	1~4	・副題：Bridging Languages: Exploring Multilingual Minds in Context ・WEB履修登録対象 ・履修定員：15名（正規生） ・履修者が定員を超えた場合、抽選により履修者を決定。
			三牧 純子	和泉	春	水	2	2	1~4	・副題：ウェルビーイングの理論と実践 ・WEB履修登録対象 ・履修定員：15名（正規生） ・履修者が定員を超えた場合、抽選により履修者を決定。 ・授業内で宿泊を伴うフィールドワークを実施
			山森 理恵	和泉	春	火	4	2	1~4	・副題：社会の課題を考える ・WEB履修登録対象 ・履修定員：15名（正規生） ・履修者が定員を超えた場合、抽選により履修者を決定。
	グローバル・シティズンシップ入門B	三牧 純子	メディア授業科目	春	木	4	2	1~4	・メディア授業 ・WEB履修登録対象	
グローバル・シティズンシップ入門D	三牧 純子	メディア授業科目	秋	木	4	2	1~4	・メディア授業 ・WEB履修登録対象		
<b>留学準備科目群</b>										
	留学のススメ	仲谷 ちはる	和泉/メディア授業科目 ※ハイブリッド科目	春	火	4	2	1~4	・メディア授業併設 ・WEB履修登録対象	
	アカデミック英語集中講座（留学前）	横川 綾子	和泉	春前	水	5	1	1~4	・春学期前半集中開講科目【S1】 ・WEB履修登録対象	
<b>海外留学科目群</b>										
	海外テーマ特化型研修	国際教育センター 海外留学担当特任教員	—	夏季・春季集中授業		2	1~4	・各プログラム参加が決定したのち、事務室で履修登録を行う（WEB履修登録対象外）。 ・成績公開時期が通常と異なるため、各プログラム内での案内を参照すること。		
	海外語学研修	国際教育センター 海外留学担当特任教員	—	夏季・春季集中授業		2	1~4	・各プログラム参加が決定したのち、事務室で履修登録を行う（WEB履修登録対象外）。 ・成績公開時期が通常と異なるため、各プログラム内での案内を参照すること。		
<b>実習科目群</b>										
	海外実習	国際教育センター 海外留学担当特任教員	—	夏季・春季集中授業		2	1~4	・各プログラム参加が決定したのち、事務室で履修登録を行う（WEB履修登録対象外）。 ・成績公開時期が通常と異なるため、各プログラム内での案内を参照すること。		
	長期海外実習	三牧 純子	—	秋		8	2~4	・国連ユースボランティア・プログラム ・長期海外実習と海外実習課題研究は同時履修が必要 ・各プログラム参加が決定したのち、事務室で履修登録を行う（WEB履修登録対象外）。 ・履修する場合、当該学期に他の科目の履修は不可		
	海外実習課題研究	三牧 純子	—	秋		4	2~4	・国連ユースボランティア・プログラム ・長期海外実習と海外実習課題研究は同時履修が必要 ・各プログラム参加が決定したのち、事務室で履修登録を行う（WEB履修登録対象外）。 ・履修する場合、当該学期に他の科目の履修は不可		
<b>留学後科目群</b>										
	アカデミック英語集中講座（留学後）	横川 綾子	駿河台	秋前	火	4	1	2~4	・秋学期前半集中開講科目【F1】 ・WEB履修登録対象	

科目名 Class Subject Name	配当学年 Year	開講期 Class Dates	単位数 Credits	開講キャンパス Campus	担当者 Faculty Member
日本社会・文化理解講座 日本社会・文化理解講座〔M〕	1～4年	秋・火・4	2単位	和泉	仲谷 ちはる
授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)					
<p>《概要 (Course Summary)》</p> <p>本講義は、全14回のうちゲスト講師によるオムニバス形式を10回、担当教員による講義を4回行う。 海外留学に際し、改めて広く日本について考え、理解するための講座である。日本のことを英語や留学先の言語で上手く説明できないことは、語学力の問題だけではなく、日本文化や日本社会についてきちんと理解していないことが原因の場合もある。</p> <p>ゲスト講師による講義では、国内外で活躍する講演者たちが自身の専門分野をもとに、日本文化や日本事情について講演し、受講者の日本の社会や文化に関する知識を深めることを目的とする。</p> <p>担当教員による講義では、ゲスト講師による講義について振り返り、同じ講義を受けた学生同士がお互いの考えを共有し、その相違について自身の考えを深めたり広げたりする。</p> <p>《到達目標 (Course Objectives)》</p> <p>本講座では、日本の文化を、言語、伝統芸能、宗教、政治、経済等の様々なテーマから扱い、留学や国際交流の場面で、日本について海外に発信できるための知識を得ることを目指す。</p>					
授業内容(Course Contents)					
1.	9/23	イントロダクション 日本社会・文化を学ぶ意義		仲谷 ちはる	
2.	9/30	「常識」とはなんですか？ 日常生活や周囲との交流における「常識」を見つめ直して、新しい「常識」ニューノーマルを考えましょう！		オースティン・オーガー (APTIM 代表取締役)	
3.	10/7	英語で説明するニッポン ～日本の未来を考えよう		安河内 哲也 (東進ハイスクール英語講師兼一般財団法人 実用英語推進機構代表理事)	
4.	10/14	国際派落語家が語るオンライン時代のコミュニケーション		三遊亭 竜楽 (落語家)	
5.	10/21	第2～4回振り返り及び自文化理解		仲谷 ちはる	
6.	10/28	日本のなかの言語多様性～日本の言語＝日本語、外国語＝英語でいいの？ [メディア授業 (オンデマンド型)]		橘 広司 (金城学院大学教授)	
7.	11/11	個性的であれ！ 寅さん人生も悪くない		川崎 つぶら (特定非営利活動法人 日本川崎病研究センター職員)	
8.	11/18	人生100年時代のお金事情～自律的な資産形成の重要性		魚住 麻里 (大手信託銀行行員)	
9.	11/25	文化の相対化とは ～日本の社会と文化をより深く理解するために		拜田 清 (和洋女子大学教授)	
10.	12/2	第6～9回振り返り及び日本における安全対策と危機管理		仲谷 ちはる	
11.	12/9	異文化の中で生き抜く力とは		中村 八千代 (特定非営利活動法人 ユニカセ・ジャパン理事長)	
12.	12/16	太神楽とは何か～おめでたいを世界へ		鏡味 味千代 (太神楽師)	
13.	1/13	社会とことば～日本語教育の視点から		二瓶 知子 (明治大学文学部兼任講師)	
14.	1/20	第11～13回振り返り及びまとめ		仲谷 ちはる	

## 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)

毎回の講義出席の確認方法は、初回の授業で説明する。

また、授業中はディスカッションを通じて意見交換するが、授業時間外は Oh-o! Meiji やメールなどで意見交換や情報提供を行う。

この科目はメディア授業併設科目として開講される。原則、和泉キャンパスでの対面受講とする。所属キャンパスが和泉以外である等のやむを得ない事情の場合は、オンライン受講も認める。以下のいずれかの方法で履修登録を行うこと。学期途中での変更（対面からオンラインまたはオンラインから対面）は、いずれも認めない。以下は履修上の注意。

### 【対面での受講を希望する場合】

和泉キャンパス開講の講義を履修登録し、指定の教室で授業に参加すること。

ただし、第 6 回はメディア授業（オンデマンド型）で実施する。

### 【オンラインでの受講を希望する場合】

メディア授業科目として開講される講義を履修登録すること。

第 6 回を除くすべての授業回を、メディア授業（リアルタイム型）で実施する。

受講場所を問わないが、視聴端末及び安定した通信環境等を各自で準備すること。なお、メディア授業科目により修得する単位は、卒業要件として修得すべき単位数のうち、60 単位を超えないものとされており、本科目は 60 単位の制限に含まれる。

ペアワーク・グループワークでのディスカッションや発表を行う場合には、原則、Zoom のカメラをオンにすること。

## 準備学習（予習・復習等）の内容 (Preparation and Review)

授業の予習として、毎回事前に配布する講義資料を熟読し、関連ニュース等を調べておくこと。

授業では、学生同士の積極的な議論や教員との質疑応答を期待するので、授業で扱う各種テーマに対する自分自身の意見や考えを整理しておくこと。

授業の復習として、各回の講義内容や討論をもとにした振り返りのレポート（リアクションペーパー）を毎週作成すること。また、自身のノート等を見返し理解を深めること。

## 教科書 (Textbook)

特に定めないが、参考書を読むことを推奨する。

## 参考書 (Reference)

『日本人が世界に誇れる 33 のこと』(2012) ジャーマン・ルース・マリー 著 (あさ出版)

『グーグル、ディズニーよりも働きたい「教室」』(2013) 松田悠介 著 (ダイヤモンド社)

『信じる！伝える！実現する！』(2015) 齋藤佳子 著 (宝島社)

『やっぱりすごいよ、日本人』(2015) ジャーマン・ルース・マリー 著 (あさ出版)

『異文化理解力』(2015) エリン・メイヤー 著 (英治出版)

『30 秒でできる！ニッポン紹介 おもてなしの英会話』(2016) 安河内哲也 監修 (IBC パブリッシング)

『30 秒でできる！ニッポンの歴史紹介 おもてなしの英会話』(2016) 安河内哲也 監修 (IBC パブリッシング)

『日本人がいつまでも誇りにしたい 39 のこと』(2018) ジャーマン・ルース・マリー 著 (あさ出版)

## 課題に対するフィードバックの方法 (How to provide Feedback to assignments)

毎回のリアクションペーパーの講評は、ゲスト講師へ共有し、フィードバックコメントが届き次第、Oh-o! Meiji より公開・通知する。

最終講義日に期末レポートについて説明し、個別の講評は Oh-o! Meiji より公開・通知する。

## 成績評価の方法 (Grading and Evaluation)

以下の諸点により、最終評価を行う。

(1) 授業における貢献度：30%

※授業の中で自主的に課題を発表し、積極的に発言をすることを評価する。

(2) リアクションペーパー：30%

※授業内容や討論をもとにした振り返りのレポートを毎週作成すること。

(3) 期末レポート：40%

※本講座で学んだことをもとに、レポートをまとめること。

※対面式での試験は行わない。

## その他 (Other)

教員への質問・相談窓口として、専用メールアドレスを履修者に通知する。

本講座とあわせて、「留学のススメ」(春学期 火曜日4限)を履修することを強く勧める。

他人のレポートやオンライン上の情報をそのままコピーして提出しないこと。また、病気やその他のやむを得ない事由により、授業当日に課題の提出ができない場合、事前に受け付ける。

外部講師により、対面型ではなく、オンデマンド型やリアルタイム型で動画配信を行う授業日については、受講方法を別途 Oh-o! Meiji にてお知らせを配信する。

明治大学 (国際教育センター) が企画する海外留学に関するイベント ([https://www.meiji.ac.jp/cip/event\\_schedule/event\\_schedule.html](https://www.meiji.ac.jp/cip/event_schedule/event_schedule.html)) や、留学のための各種相談 (<https://www.meiji.ac.jp/cip/preparation/counseling/counseling.html>) の利用を強く勧める。また、学内外の国際交流や留学に関する情報収集を積極的に行うこと。

科目名 Class Subject Name	配当学年 Year	開講期 Class Dates	単位数 Credits	開講キャンパス Campus	担当者 Faculty Member
明治大学 アセアンセンター講座 [M]	1～4年	春・木・5 秋・木・5	2単位	メディア授業 科目	タンシリトンチャイ, ウイライラック
授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)					
<p>いまや日本では、業種業態を問わずアジアとの関係が緊密になり、その重要性は今後ますます高まると考えられる。特にタイは、日系企業が多数進出していることにも見られるとおり、日本とアジアを結ぶ重要な要の国である。こうした状況の下、ビジネスパーソン、製品開発者、建築家、NGO、公務員など多くの実務分野において、現地の言語や文化に通じ、日本とアジアの架け橋として活躍できる人材が求められている。</p> <p>本講座は、そうした日本とアジアの架け橋たる実務型リーダーとして将来活躍することを目指し、特にタイの言語と文化について基礎的理解を身に付けることを目標とするものである。各回の講義では、タイ特有の文化及び社会を講義し、その文化や社会の背景に基づくコミュニケーション方法を紹介するとともに、関連するアセアン諸国の文化や社会も紹介する。また本講座で得た知識や情報などを自国の言語や文化と比較して類似点や相違点を考えることで理解を深める。</p> <p>本講座の目標は、タイ語会話の基礎知識やタイの文化・社会に基づくコミュニケーション方法を身につけることにある。本講座終了時には、履修者は、上述3つの基本とタイ語の基本的な文法を身につけると同時に、基本的な挨拶・自己紹介ができるようになり、また、時間、モノの位置関係を示したり、意見・感情、経験、願望などを表したりできることが期待されている。</p>					
授業内容(Course Contents)					
1.	イントロダクション、タイ及びタイ語の概要 [メディア授業 (リアルタイム型)]				
2.	あいさつから見たタイ文化、アセアン諸国の紹介 [メディア授業 (リアルタイム型)]				
3.	タイ人の自己紹介 [メディア授業 (リアルタイム型)]				
4.	タイ人の方向感覚 [メディア授業 (リアルタイム型)]				
5.	タイ人と日本人の意見・感情の表現 [メディア授業 (リアルタイム型)]				
6.	まとめ、異文化理解の観点からタイやアセアンを見るセクション [メディア授業 (リアルタイム型)]				
7.	タイの若者のライフスタイル [メディア授業 (リアルタイム型)]				
8.	タイおよびアセアン諸国の食文化 [メディア授業 (リアルタイム型)]				
9.	タイ人のコミュニケーション方法 [メディア授業 (リアルタイム型)]				
10.	タイ人の時間の表現 [メディア授業 (リアルタイム型)]				
11.	まとめ、異文化理解の観点からタイ社会と生活を見るセクション [メディア授業 (リアルタイム型)]				
12.	タイ人の経験・願望の表現 [メディア授業 (リアルタイム型)]				
13.	タイ文字 [メディア授業 (リアルタイム型)]				
14.	a : 総まとめ、b : プレゼンテーション [メディア授業 (リアルタイム型)]				

## 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)

本講義は、タイにおいて日本語で行われる授業を配信するオンライン科目である（リアルタイム配信型のオンライン授業）。初心者でも受講できるが、タイ交流プログラムや交換留学生希望者等は積極的に参加してもらいたい。

リアルタイム配信型のオンライン授業として実施するため、キャンパス内の自習室および自宅から受講が可能である。受講にあたっては、視聴端末は各自で準備すること。なお、毎回の講義の際に、学生参加型のインタラクティブなディスカッションや質疑応答のコーナーを設け出席確認及び理解度確認を行う。また、授業中は Zoom カメラオンでのディスカッションを通じて意見交換を行う。

また、タイとの遠隔授業となるため、履修定員を 15 名とする。履修希望者が定員を超えた場合は、初回授業に実施予定の課題（ショートエッセイ）の内容により、選抜を行う。履修希望者は必ず初回授業に参加すること。

## 準備学習（予習・復習等）の内容 (Preparation and Review)

事前に Oh-o! Meiji クラスウェブにアップロードされた資料、特に語彙の部分の予習し、授業後には学習した語彙、表現、構文などを復習しながら語彙整理表に書いて確認しておくこと。発音及び会話の練習もしておくことと表現力が自然に身につく。

また、授業中に紹介・指摘される日タイにおける文化的・言語的な共通点及び相違点について、配布資料や参考書を参照し、復習することで、日本とタイのみならず、グローバルな観点・視野も広げてもらいたい。

## 教科書 (Textbook)

特に定めない（講師によるプリントや資料を配布予定）。

## 参考書 (Reference)

- 『タイを知るための 60 章 エリア・スタディーズ』綾部恒雄、林行夫 著（明石書店）
- 『東南アジアを知るための 50 章 エリア・スタディーズ』今井昭夫 編集代表（明石書店）
- 『デイリー日タイ英・タイ日英辞典』宇戸清治 監修（三省堂）
- 『今すぐ話せるタイ語 入門編』水野潔 著（東進ブックス）

## 課題に対するフィードバックの方法 (How to provide Feedback to assignments)

提出課題やレポートに対して Oh-o! Meiji でコメント・フィードバックをするとともに、講義の際にも、質疑応答および解説のコーナーを設け、フィードバックしたことについて学生参加型のインタラクティブなディスカッションや意見交換を行い理解度を確認する。授業時間外は Oh-o! Meiji やメールなどで情報提供を行うこともある。

## 成績評価の方法 (Grading and Evaluation)

- ・平常点 20%（クラス活動 10%、勉学態度 5%、表現力 5%）
- ・課題 20%
- ・中間レポート 25%
- ・最終レポート 35%

※対面形式での試験は行わない。

## その他 (Other)

本講義の受講をきっかけにタイないし東南アジアへの関心を高め、在学中に同地域へ留学するなどして、卒業後には日本とアジアを結ぶ実務型リーダーとして活躍することを目指してもらいたい。

メディア授業科目により修得する単位は、卒業要件として修得すべき単位数のうち 60 単位を超えないものとされており、本科目は 60 単位の制限に含まれる。

なお、授業時間外は Oh-o! Meiji やメールなどで意見交換や情報提供を行う。提出課題を通じてコメントや意見を交換することもある。教員への質問・相談窓口として、専用メールアドレスを履修者に通知する。

科目名 Class Subject Name	配当学年 Year	開講期 Class Dates	単位数 Credits	開講キャンパス Campus	担当者 Faculty Member
Meiji Active Global International Collaborative Learning (MAGIC-L)	1～4年 1st to 4th	秋・水・2 Fall, Wed, 2	2単位 2 credits	和泉 Izumi	横川 綾子 Ayako Yokogawa

#### 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)

##### Course Summary

"Bridging Languages: Exploring Multilingual Minds in Context", the subtitle of this class, is an international collaboration course open to Japanese and international students. In this class, students will learn how speaking more than one language can affect their thoughts, communication styles, and cultural views. Through lectures, group discussions, and presentations, students will discover how multilingualism shapes both personal identity and society.

##### Course Objectives

By the end of this course, students will be able to

- 1) collaborate effectively with peers who speak various first languages.
- 2) understand how the language can influence their thinking and cultural perspectives.
- 3) discuss how multilingualism affects each individual's identity and perspectives.
- 4) explore multilingual minds in group and individual presentations.

#### 授業内容(Course Contents)

Note: The schedule may change based on how many students register for the course.

##### Week 1: Orientation

Icebreaker: Get to know each other by sharing language backgrounds.

Orientation: Learn about the topics in the course.

Key Idea: Get introduced to the main concepts of multilingualism.

##### Week 2: What is Multilingualism?

Lecture: Discover what it means to speak multiple languages.

Discussion: Share your own experiences of speaking more than one language.

Reading Assignment 1: Read short articles about multilingualism and answer discussion questions.

##### Week 3: Language Learning and Its Challenges

Lecture: Understand how people learn languages.

Activity: Share your ideas of Reading Assignment 1 with the class.

Group Work: Start talking about possible topics for your group presentations.

##### Week 4: Importance of Context in Language Use

Lecture: Explore how language use changes in different situations.

Activity: Discuss real-life examples of how context affects language.

Group Work: Narrow down your group presentation topics.

##### Week 5: Guest Speaker Session

Talk: Listen to a guest speaker's talk about multilingualism.

Q&A: Ask questions and learn from the guest speaker's lived experiences.

Reflective Assignment: Write a 400-word reflection paper on what you learned from the guest speaker.

**Week 6: Exploring Language Interaction**

Lecture: Learn how different languages can influence multilingual minds.

Activity: Reflect on your own multilingual experiences.

Group Work: Finalize your group presentation topics and discuss content.

*No class during the Meidai Festival Week*

**Week 7: Preparing for Group Presentations**

Workshop: Learn effective presentation tips.

Group Work: Work on your group presentations.

Consultation: Get suggestions from the instructor.

**Week 8: Group Presentations**

Presentation: Share your group work with the class.

Feedback: Give and receive peer feedback, and join a class discussion.

**Week 9: Exploring L1-L2 Interaction**

Lecture: Learn about how first and second languages can interact.

Reading Assignment 2: Read short articles about multilingualism and answer discussion questions.

Group Work: Brainstorm ideas for your individual presentation topics.

**Week 10: Exploring Multilingual Minds**

Lecture: Understand how multiple languages you speak can shape your thoughts.

Activity: Share your ideas of Reading Assignment 2 with the class.

Group Work: Discuss your individual presentation topics.

**Week 11: Preparing for Individual Presentations Part 1**

Lecture: Samples of individual presentations topics.

Individual Work: Start outlining the individual presentation.

Group Work: Share your progress on the individual presentation with the class.

**Week 12: Preparing for Individual Presentations Part 2**

Workshop: Learn how to structure effective individual presentations.

Group Work: Share the outline of your drafted presentation with peers and receive feedback.

Consultation: Get one-on-one advice from the instructor.

*No class during the Winter Break*

**Week 13: Individual Presentations (Part 1)**

Presentation: Share your personal views on multilingualism.

Feedback: Receive comments from peers and the instructor.

**Week 14: Individual Presentations (Part 2) & Course Wrap-up**

Presentation: Continue with remaining individual presentations.

Feedback: Receive comments from peers and the instructor.

Wrap-up: Reflect on your learning and complete a course evaluation.

## 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)

### Course Registration

This course is subject to a lottery system. Regular students who wish to enroll must register through the designated online course registration system during the specified lottery period.

Exchange students who wish to take this course must attend the first class session, as a selection process for enrollment will be conducted.

### English Level Requirement

This course uses clear, simple English. To actively join in class discussions and give presentations, you should have English skills at about TOEFL iBT 61+, IELTS 5.5+, or TOEIC L&R 685.

### Attendance Policy

If you miss three or more classes without a valid, documented reason, you will receive a failing grade.

## 準備学習 (予習・復習等) の内容 (Preparation and Review)

### Preparation

Please complete the assignments and think about the next class topic in advance. This will help you contribute meaningfully to class discussions.

### Review

After each class, review the materials and discussions so that you clearly understand the main concepts.

## 教科書 (Textbook)

There is no required textbook. All necessary reading materials will be provided by the instructor as needed.

## 参考書 (Reference)

The instructor will recommend specific references throughout the course. These are not mandatory but can provide additional insights and support your learning.

## 課題に対するフィードバックの方法 (How to provide Feedback to assignments)

Feedback will be provided verbally in class or through comments on the learning management system Oh-o! Meiji. Students can access their feedback and track their progress through the platform.

## 成績評価の方法 (Grading and Evaluation)

Reading Assignments 1-2: 20%

Reflective Assignment: 30%

Group Presentation: 20%

Individual Presentation: 30%

## その他 (Other)

This course is designed to provide an international collaborative learning experience. International students interested in engaging with Japanese students are warmly welcome.

科目名 Class Subject Name	配当学年 Year	開講期 Class Dates	単位数 Credits	開講キャンパス Campus	担当者 Faculty Member
Meiji Active Global International Collaborative Learning (MAGIC-L)	1～4年	春・水・2	2単位	和泉	三牧 純子

#### 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)

この講義では、ウェルビーイングの理論と実践に焦点を当て、体験的に学びを深めてゆきます。

##### 《授業の概要》

テーマ：ウェルビーイングの理論と実践

「ウェルビーイング」とは何でしょうか。ウェルビーイングとは「well (よい)」と「being (状態)」からなる言葉です。世界保健機関 (WHO) は、ウェルビーイングを「個人や社会のよい状態」と定義し、健康と同様に日常生活の一要素であり、社会的、経済的、環境的な状況によって決定されると紹介しています。

2015年の国連総会で採択された持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals: SDGs) の宣言文に、身体的・精神的・社会的にウェルビーイングな社会を目指すことが盛り込まれて以降、世の中により浸透していきました。SDGsが掲げる未来は2030年までであり、次なる目標として、地球全体のウェルビーイングを重視した新たな国際目標の設定に関心が集まっています。

このような背景から、今後国際社会の一員として、ウェルビーイングの概念を理解するだけでなく、ウェルビーイングを高めるための実際の行動を取ることがますます重要になってきています。

この講義では、ウェルビーイングの理論だけでなく、各国での取り組みや考え方を通して理解を深めていきます。また、異なる背景を持つ仲間とグループワークでウェルビーイングの理論を実践してみたり、「ウェルビーイングなまちづくり」を進めている自治体での合宿 (1泊2日) を行います。

これにより、ウェルビーイングの概念とその実践について体験的に習得するとともに、グローバル人材に求められる能力の基盤を形成します。

##### 《到達目標》

- ・異なる背景を持つ他学生との協働を通じて、異文化理解を深め、グローバル人材としての基盤を形成する。
- ・グループワークや自治体での合宿を通じて、ウェルビーイングの概念について体験的に理解する。
- ・自身のウェルビーイングを高めるための方策を見出す。

#### 授業内容 (Course Contents)

1.	4/16	イントロダクション
2.	4/23	ウェルビーイングの理論
3.	5/7	ウェルビーイングの計測と活用
4.	5/14	ウェルビーイング事例 (1)
5.	5/21	ウェルビーイング事例 (2)
6.	5/24	フィールドワーク (1) ※合宿内で実施
7.	5/24	フィールドワーク (2) ※合宿内で実施
8.	5/25	フィールドワーク (3) ※合宿内で実施
9.	5/28	フィールドワークのまとめ
10.	6/4	グループワーク (1)
11.	6/11	グループワーク (2)
12.	6/18	グループワーク (3)
13.	6/25	グループワーク発表
14.	7/2	まとめ

## 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)

### ・履修登録：

本科目は抽選対象科目です。履修を希望する正規生は、所定の抽選期間中に WEB 履修登録システムから登録を行ってください。

本科目の履修を希望する交換留学生は、履修者選考を行うため、必ず初回授業時に出席してください。

### ・本講義の言語：

日本語をメインに使用します。留学生が履修する日本語上級者または留学生共通日本語科目日本語6レベル以上であることを履修条件とします。

授業中および他の履修者とのやり取りにおいて、積極的なコミュニケーションが求められます。

### ・フィールドワーク（合宿）の概要：

（詳細については、改めて講義内で説明します）。

場 所：埼玉県横瀬町

日 程：2025年5月24日（土）～25日（日）に1泊2日

経 費：交通費は新宿を起点とした場合、片道1,531円（2025年1月末現在）

宿泊費は夕食と朝食込みで税込み9,900円を想定しています。

その他：合宿内で授業を実施し、出席を取ります。合宿の参加を前提に履修登録を行ってください。

宿泊部屋は男女別です。

各部屋4名程度の相部屋となります。お風呂やお手洗いも共同です（男女別）。

くじ引きで部屋を決定します。

### ・ストレングスファインダーテストの受検：

『さあ、才能(じぶん)に目覚めよう 最新版 ストレングス・ファインダー2.0』（日本経済新聞社）を各自で購入し、付属のアクセスコードを用いて、自分の強みを知るためのウェブテスト（ストレングスファインダーテスト）を受検してください。

そしてテスト結果を、第二回目の講義までに提出してください。詳細については、講義内で説明します。

## 準備学習（予習・復習等）の内容 (Preparation and Review)

講義内で参考資料を提示し、事前確認を課す場合があります。

### 教科書 (Textbook)

『さあ、才能(じぶん)に目覚めよう 最新版 ストレングス・ファインダー2.0』クリフトン、ジム・ギャラップ著、古屋博子訳（日本経済新聞社）

### 参考書 (Reference)

『幸せのメカニズム 実践・幸福学入門』前野隆司（講談社）

## 課題に対するフィードバックの方法 (How to provide Feedback to assignments)

リアクションペーパーについて講義の中で全体講評を行います。

## 成績評価の方法 (Grading and Evaluation)

・講義への参画度 20%

・毎回の授業参加レポート（一枚以内のリアクションペーパー）の質的水準 35%

・中間レポート 20%

・期末レポート 25%

※対面での試験はありません。

## その他 (Other)

特になし。

科目名 Class Subject Name	配当学年 Year	開講期 Class Dates	単位数 Credits	開講キャンパス Campus	担当者 Faculty Member
Meiji Active Global International Collaborative Learning (MAGIC-L)	1～4年	春・火・4	2単位	和泉	山森 理恵

#### 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)

##### 《授業の概要》

テーマ：社会の課題を考える。

異なる人々が共に生きるうえでの日本や世界におけるさまざまな社会課題について調べ、考えて、さまざまな人の意見を聞き、解決方法や自分たちで取れる行動を提案することを目指す授業です。プロジェクトワークではグループで社会課題の一つを選び、ビデオを作成します。選んだテーマについて自分たちで調べ、ほかの人がその問題を理解し、どのような意見があるか知り、解決方法や自分でできる行動について考えることができるようなビデオです。

##### 《到達目標》

- 異なる人々が共に生きるうえでの社会の課題について、情報を収集、分析し、わかりやすく説明することができる。
- 異なる人々が共に生きるうえでの社会の課題について、課題を特定して意見を述べたり、解決する方法や自らできることについて提案したりすることができる。
- クラスメイトと十分なコミュニケーションをとり、異なる文化背景の他者を理解し、受け入れ、尊重して接することができる。
- グループワークがうまく進むように役割を果たし、働きかけを行い、必要な行動をとることができる。

#### 授業内容(Course Contents)

1.	イントロダクション、互いを知る
2.	トピック①「マジョリティとマイノリティ」・ディスカッション
3.	トピック②「外国人」・ディスカッション、ニュース発表説明
4.	ワールドカフェ方式によるディスカッション、プロジェクトワーク準備
5.	ミニ発表・ディスカッション、プロジェクトワーク①テーマ選定
6.	ミニ発表・ディスカッション、プロジェクトワーク②テーマについて調査
7.	ミニ発表・ディスカッション、プロジェクトワーク③テーマについて取材/資料収集
8.	ミニ発表・ディスカッション、プロジェクトワーク④アウトライン作成
9.	ミニ発表・ディスカッション、プロジェクトワーク⑤スクリプト作成
10.	ミニ発表・ディスカッション、プロジェクトワーク⑥ビデオ収録
11.	ミニ発表・ディスカッション、プロジェクトワーク⑦ビデオ編集
12.	ミニ発表・ディスカッション、プロジェクトワーク⑧ビデオ編集
13.	ミニ発表・ディスカッション、プロジェクトワークビデオ上映会、ディスカッション
14.	ミニ発表・ディスカッション、プロジェクトワークビデオ上映会、ディスカッション、振り返りとまとめ

<b>履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本科目は抽選対象科目です。履修を希望する正規生は、所定の抽選期間中に WEB 履修登録システムから登録を行ってください。</li> <li>・本科目の履修を希望する交換留学生は、履修者選考を行うため、必ず初回授業時に出席してください。</li> <li>・授業は日本語で行います。留学生は中級レベル (JLPT N2-N3 レベル、CEFR B1 レベル、留学生共通日本語科目日本語 5 レベル) 以上の日本語力を有することが必要です。</li> <li>・毎回、積極的にグループワークに参加することが求められます。</li> </ul>
<b>準備学習 (予習・復習等) の内容 (Preparation and Review)</b>
<p>事前学習：次回資料を事前に読む、トピックや発表、プロジェクトワークのために調べる</p> <p>事後学習：授業内容について振り返る、トピックやプロジェクトワークのテーマについてさらに調べる</p>
<b>教科書 (Textbook)</b>
教科書は使用せず、Oh-o! Meiji 等で配布する資料を使用します。
<b>参考書 (Reference)</b>
授業時に紹介します。
<b>課題に対するフィードバックの方法 (How to provide Feedback to assignments)</b>
Oh-o! Meiji 等を用いて提出物に対してフィードバックを実施します。
<b>成績評価の方法 (Grading and Evaluation)</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・提出物 (毎回のコメント提出、期末の振り返りなど) 40%</li> <li>・ミニ発表 10%</li> <li>・プロジェクトワーク 40%</li> <li>・平常点 (クラス参加度) 10%</li> </ul>
<b>その他 (Other)</b>
<p>授業のスケジュールおよび内容は、履修学生の人数、興味関心などにより変わることがあります。</p> <p>授業に関わる活動における生成 AI などの利用方法については、授業内の指示に従ってください。</p>

科目名 Class Subject Name	配当学年 Year	開講期 Class Dates	単位数 Credits	開講キャンパス Campus	担当者 Faculty Member
グローバル・シティズン シップ入門B [M]	1～4年	春・木・4	2単位	その他	三牧 純子

#### 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)

この講義は、「グローバルイシューとキャリア」に焦点を当てます。そして、「オンライン」講義の強みを最大限に活かして、国内外の現場の第一線で活躍するプロフェッショナルの方々から学びます。

##### 《授業の概要 (Course Summary)》

私たちを取り巻くグローバルな社会は、パンデミック、気候変動、国際紛争、資源の不均衡、貧困、人権の侵害など、多岐にわたる課題に直面しています。そして、これらの問題は国境を越えて影響を及ぼし、持続可能な社会を築くためには、グローバルイシューについて理解を深めること、そして単一の国や地域だけでなく、異なる文化や価値観を持つ多様な人々と協働して解決策を生み出すことが求められています。

こうした背景から、この講義ではグローバルな課題とその解決のための取組事例について、理解を深めることを目的としています。

さらに、グローバルな課題の解決に取り組んでいる様々なプロフェッショナル (JICA スタッフや NPO 職員、社会起業家) が、グローバルな世界をどう捉えているのか、また、彼ら自身がこれまで必要なスキルをどう磨き、キャリアをどう構築してきたのかについて理解することも目的としています。

これらの理解を通じて、受講者が「グローバルな課題と自身との繋がり」を見出し、将来の自身のキャリアや必要となるアクションを考えるための示唆 (手がかり) を得ることが期待されます。

なお、この講義では、受講者が多角的に物事を理解し、様々な背景の人々と協働するための能力の形成を目指して、講義の中で受講者は講義中に Zoom のブレイクアウトルーム機能を用いて、少人数 (4 人単位) で対話を行う予定です。

##### 《到達目標 (Course Objectives)》

- ・自身とグローバルな課題との接点を見つける
- ・対話を通じて新たな視点を得つつ、協働する能力を身につける
- ・グローバルなキャリアのイメージを把握し、自身に必要なアクションを言語化する

#### 授業内容 (Course Contents)

授業で取り上げる事例は、「地域 (特定の国・地域から考えるもの)」、「課題 (特定の課題から考えるもの)」、そして「新たな潮流 (最近の国際協力のかたち)」の3つに大別されます。様々な視点からグローバルイシューとグローバルなキャリアを考えてゆきます。

1.	イントロダクション [メディア授業 (リアルタイム型)]	三牧 純子
2.	【課題】 鉄道インフラで社会を変える [メディア授業 (リアルタイム型)]	小泉 幸弘 (JICA 企画部職員 参事役)
3.	【地域】 アフリカ・ベナンでのボランティア経験と暮らしから見えてきたもの [メディア授業 (リアルタイム型)]	エケ 陽子 (NGO Salu Tota 代表)
4.	【課題】 母子手帳で母と子の命を守るには [メディア授業 (リアルタイム型)]	萩原 明子 (JICA 国際協力専門員)
5.	【地域】 アフリカ・ルワンダとテクノロジー支援 [メディア授業 (リアルタイム型)]	浅沼 琢朗 (JICA ルワンダ事務所 所員)
6.	【地域】 パレスチナを巡る課題と人々への支援 [メディア授業 (リアルタイム型)]	阿部 俊哉 (JICA 評価部部長、前 JICA パレスチナ事務所 所長)
7.	【地域】 大洋州サモアから考える豊かさと支援 [メディア授業 (リアルタイム型)]	朝熊 由美子 (JICA サモア支所 所長)

8.	【新たな潮流】ニッポン型野球でアフリカと日本の未来を創る〔メディア授業（リアルタイム型）〕	友成 晋也（一般財団法人アフリカ野球・ソフト振興機構代表理事）
9.	【新たな潮流】最高の教育を世界の果てまで～テクノロジーで途上国の教育格差に挑む〔メディア授業（リアルタイム型）〕	坂井 健（認定NPO法人e-Education 副代表）
10.	【新たな潮流】海外協力隊事業とオープンイノベーション〔メディア授業（リアルタイム型）〕	黒田 篤槻（JICA 青年海外協力隊事務局職員）
11.	【新たな潮流】アフリカを安全な水で満たす未来を創る〔メディア授業（リアルタイム型）〕	坪井 彩（株式会社 Sunda Technology Global 代表）
12.	【新たな潮流】唐揚げでアフリカ小規模農家 5 億人を救う〔メディア授業（リアルタイム型）〕	関根 賢人（YOOFIN 創業者）
13.	まとめ①〔メディア授業（リアルタイム型）〕	三牧 純子
14.	まとめ②〔メディア授業（リアルタイム型）〕	三牧 純子

#### 履修上の注意（Prerequisites and registration requirements）

##### （1）単位：

この授業はメディア授業科目として開講される科目です。

授業は全て講義動画をリアルタイムで配信します。メディア授業科目により修得する単位は、卒業要件として修得すべき単位数のうち 60 単位を超えないものとされており、本科目は 60 単位の制限に含まれます。

##### （2）出席確認方法：

出席は点呼および授業参加レポートで確認します。また、授業中に呼びかけに応じない場合は欠席扱いとすることがあります。

##### （3）受講環境：

①環境：受講にあたっては、受講場所は問いませんが、視聴端末及び通信環境等は各自で準備してください。

②カメラオン：小グループでの対話の時間は、カメラオンでの参加を求めますので、留意ください。

③Zoom の URL：この授業はリアルタイム配信型であり、受講者は授業開始時刻に Zoom を使って授業に参加してください。Zoom による授業アクセスのためのミーティング ID 及びパスワード、または URL はクラスウェブにある「授業内容やお知らせ」に記載しますので、確認してください。

④一部講義については、ハイブリッド（オンライン及び特定のキャンパスからの配信）を想定しています。詳細については、講義開始後にお伝えします。

##### （4）授業開始以降に変更が生じる場合：

「授業内容やお知らせ」に記載しますので、確認してください。

#### 準備学習（予習・復習等）の内容（Preparation and Review）

講義内で参考資料を提示し、事前確認を課す場合があります。また、事前に授業に使う資料がある場合は事前にアップロードします。受講者は各自 Oh-o! Meiji システムからダウンロードして予習してください。授業内容がさらに分かりやすくなります。

#### 教科書（Textbook）

特に定めません。

#### 参考書（Reference）

- ・『私たちが国際協力をする理由 人道と国益の向こう側』紀谷昌彦（日本評論社）
- ・『第三世界の農村開発』ロバート・チェンバース（明石書店）
- ・『国際協力を学ぶ人のために』内海成治・桑名恵・杉田映理（世界思想社）

#### 課題に対するフィードバックの方法（How to provide Feedback to assignments）

リアクションペーパーについて講義の中で全体講評を行います。

## 成績評価の方法 (Grading and Evaluation)

- ・ 講義への参画度 20%
- ・ 毎回の授業参加レポート (一枚以内のリアクションペーパー) の質的水準 35%
- ・ 中間レポート 20%
- ・ 期末レポート 25%

※対面での試験はありません。

## その他 (Other)

「開発の課題」は開発途上国だけに存在するものではありません。日本は課題先進国と呼ばれており、少子高齢化を背景に日本も様々な課題を抱えています。社会のサステナビリティを実現するために、日本の社会課題にグローバルな観点からイノベティブに取り組む様々なアクター (自治体、民間企業そして NPO) の取り組み (ソーシャルイノベーション) について、以下の講義で取り上げる予定です。

- ・ 開講時期：秋学期の木曜 (4 限)
- ・ 講義タイトル：留学生・国際連携科目「グローバル・シティズンシップ入門D (旧名称 ソリューション・アプローチ (国際システム))」

問合せ：

授業に関する質問や意見、相談等がある場合は講義の担当者にメールで相談してください (国際連携機構特任准教授 三牧 mimaki@meiji.ac.jp)。

科目名 Class Subject Name	配当学年 Year	開講期 Class Dates	単位数 Credits	開講キャンパス Campus	担当者 Faculty Member
グローバル・シティズン シップ入門D [M]	1～4年	秋・木・4	2単位	その他	三牧 純子

#### 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)

この講義では、日本国内の社会課題のうち、特に「環境」と「人と人との関係性」に関わる課題に焦点を当てます。そして、「オンライン授業」ならではの強みを最大限に活かし、社会の課題解決に日本各地で取り組んでいるプロフェッショナルを外部講師としてお招きします。また、キャンパスの垣根を越えて、様々な学部の学生と対話を行い、実践力の習得を目指します。

#### 《授業の概要 (Course Summary)》

2015年に国連で持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals, SDGs) が採択されて以降、世界各国で持続可能な社会の構築の必要性について認識が広まっています。しかしながら、私たちの社会は、当事者だけでは解決できない様々な課題に直面しています。それでは、持続可能な社会を構築するために、社会課題に対してどのように解決策を見出してゆけばよいのでしょうか。

この講義では、日本国内の社会課題の中で特に環境問題 (廃棄物、耕作放棄、生態系保全) や人と人との関係性に関わる課題 (望まない孤立、多文化共生、経済格差等) の様々な取り組み事例に着目します。そして、様々なアクター (個人、民間企業、自治体、NPO 等) や仲間との対話を通じて、社会課題と私たちとの接点、課題解決のためのクリエイティブな発想、グローバルな視点の地域社会 (ローカル) への還元について考えます。こうした学びを通じて、受講者自身が課題の解決に貢献するための実践力を習得することを目的としています。

なお、これからの未来は、VUCA (ブーカ) と呼ばれる予測不能で変転する時代となると予見されています。このため、既存の解決策では対応が困難であり、背景が異なる多様な人材とアイデアを重ね、解決策を見出してゆくことが求められています。こうしたことを踏まえて、この講義では、受講者は講義中に Zoom のブレイクアウトルーム機能を用いて、少人数 (4人単位) での対話を行う予定です。

#### 《到達目標 (Course Objectives)》

- ・社会課題と自身との接点を見出す
- ・課題解決に必要な視点や発想を理解する
- ・持続可能な社会の構築のために自身が貢献するための実践力を身につける

#### 授業内容 (Course Contents)

1.	イントロダクション [メディア授業 (リアルタイム型)]	三牧 純子
2.	共感から始めるイノベーション [メディア授業 (リアルタイム型)]	鶴尾 雅隆 (認定特定非営利活動法人日本ファンドレイジング協会代表理事)
<b>【環境に向き合う】</b>		
3.	環境に配慮したサステナブルなホテル経営 [メディア授業 (リアルタイム型)]	片岡 慎一郎 (株式会社ニュー・オータニマネージメントサービス課課長)
4.	地域の資源を活かしたサステナブルなまちづくり (徳島県上勝町の事例) [メディア授業 (リアルタイム型)]	野々山 聡 (合同会社パンゲア最高経営責任者)
5.	エコビレッジを通じてサステナブルな社会を創る [メディア授業 (リアルタイム型)]	小川 美農里 (Dana Village・チャルジョウ西会津農場代表)
6.	生態系保全の観点から耕作放棄地に取り組む (神奈川県秦野市の事例) [メディア授業 (リアルタイム型)]	白井 寛人 (株式会社ファウナバランス 代表取締役)

【人と人との関係性を豊かなものに】		
7.	地域から多文化共生社会を創る（愛知県の事例）〔メディア授業（リアルタイム型）〕	神田 すみれ（多文化ソーシャルワーカー、愛知県立大学生涯発達研究所協力研究員）
8.	メタバースを使って不登校児に最高峰の教育を届ける〔メディア授業（リアルタイム型）〕	星野 達郎（株式会社 NIJIN 代表）
9.	社会経済的に困難な子ども達の選択肢を増やす〔メディア授業（リアルタイム型）〕	栗野 泰成（一般社団法人チョイふる代表理事）
10.	分身ロボットで全ての人につながるという選択肢を〔メディア授業（リアルタイム型）〕	杜多 啓佑（株式会社オリィ研究所事業開発）
11.	「望まない孤独」のない社会を創る〔メディア授業（リアルタイム型）〕	大空 幸空（衆議院議員、「あなたの居場所」元理事長）
【未来を創る】		
12.	実験コミュニティから考えるこれからの未来（広島県大崎下島の事例）〔メディア授業（リアルタイム型）〕	更科 安春（一般社団法人まめな Founder）
13.	まとめ①〔メディア授業（リアルタイム型）〕	三牧 純子
14.	まとめ②〔メディア授業（リアルタイム型）〕	三牧 純子
※外部講師の事例紹介をもとに、Zoom のブレイクアウトルーム機能を使って、4 名程度の小グループで参加者間の対話を複数回行います。対話の間中は全参加者がカメラオンでの参加をお願いします。		
履修上の注意（Prerequisites and registration requirements）		
<p>(1) 単位：</p> <p>この授業はメディア授業科目として開講される科目です。</p> <p>授業は全て講義動画をリアルタイムで配信します。メディア授業科目により修得する単位は、卒業要件として修得すべき単位数のうち 60 単位を超えないものとされており、本科目は 60 単位の制限に含まれます。</p> <p>(2) 出席確認方法：</p> <p>出席は点呼および授業参加レポートで確認します。また、授業中に呼びかけに応じない場合は欠席扱いとすることがあります。</p> <p>(3) 受講環境：</p> <p>①環境：受講にあたっては、受講場所は問いませんが、視聴端末及び通信環境等は各自で準備してください。</p> <p>②カメラオン：小グループでの対話の時間は、カメラオンでの参加を求めますので、留意ください。</p> <p>③Zoom の URL：この授業はリアルタイム配信型であり、受講者は授業開始時刻に Zoom を使って授業に参加してください。Zoom による授業アクセスのためのミーティング ID 及びパスワード、または URL はクラスウェブにある「授業内容やお知らせ」に記載しますので、確認してください。</p> <p>④一部講義については、ハイブリッド（オンライン及び特定のキャンパスからの配信）を想定しています。詳細については、講義開始後にお伝えします。</p> <p>(4) 授業開始以降に変更が生じる場合：</p> <p>「授業内容やお知らせ」に記載しますので、確認してください。</p>		
準備学習（予習・復習等）の内容（Preparation and Review）		
講義内で参考資料を提示し、事前確認を課す場合があります。また、事前に授業に使う資料がある場合は事前にアップロードします。受講者は各自 Oh-o! Meiji システムからダウンロードして予習してください。授業内容がさらに分かりやすくなります。		
教科書（Textbook）		
特に定めません。		

参考書 (Reference)
『SDGs 超入門』バウンド (株式会社 技術評論社)
課題に対するフィードバックの方法 (How to provide Feedback to assignments)
リアクションペーパーについて講義の中で全体講評を行います。
成績評価の方法 (Grading and Evaluation)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講義への参画度 20%</li> <li>・ 毎回の授業参加レポート (一枚以内のリアクションペーパー) の質的水準 35%</li> <li>・ 中間レポート 20%</li> <li>・ 期末レポート 25%</li> </ul> <p>※対面での試験はありません。</p>
その他 (Other)
<p>社会課題の解決に関心のある方は、グローバル・イシューとその担い手となるためのキャリアについて取り上げる、以下の講義の受講を強く勧めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 開講時期：春学期の木曜 (4 限)</li> <li>・ 講義タイトル：留学生・国際連携科目「グローバル・シティズンシップ入門B (旧名称 ソリューション・アプローチ (グローバル・イシュー各論))」</li> </ul> <p>問合せ：</p> <p>授業に関する質問や意見、相談等がある場合は講義の担当者にメールで相談してください (国際連携機構特任准教授 三牧 mimaki@meiji.ac.jp)。</p>

科目名 Class Subject Name	配当学年 Year	開講期 Class Dates	単位数 Credits	開講キャンパス Campus	担当者 Faculty Member
留学のスズメ 留学のスズメ [M]	1～4年	春・火・4	2単位	和泉	仲谷 ちはる
授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)					
<p>《概要 (Course Summary)》</p> <p>本講義は、全14回のうちゲスト講師によるオムニバス形式を10回、担当教員による講義を4回行う。</p> <p>ゲスト講師による講義では、国際的に活躍する講演者の講師が海外留学や海外勤務等の経験をもとに、留学の意義や留学が自身の人生にもたらした変化などについて講演し、受講者は講演者の経験した実例をもとに、受講者の留学に対する意識を高めていくことを目的とする。さらに、カルチャーショックや逆カルチャーショックなど、留学体験から派生する課題について議論し、異文化適応能力の意義についても学んでいく。</p> <p>担当教員による講義では、ゲスト講師による講義について振り返り、同じ講義を受けた学生同士がお互いの考えを共有し、その相違について自身の考えを深めたり広げたりする。</p> <p>《到達目標 (Course Objectives)》</p> <p>学生は本講義を通じて、海外留学に対する明確な目的や目標を持つことの重要性を認識し、海外に目を向け、異なるバックグラウンドを持つ人々との交流や海外生活での学びに強い意欲を持つとともに、短期留学や長期留学等の海外留学に挑戦する人材として必要になる素養を身に付けることを到達目標とする。</p>					
授業内容(Course Contents)					
1.	4/15	イントロダクション 海外留学の意義		仲谷 ちはる	
2.	4/22	「ありがとう」を言わない人々との出会い ～人生を変えたオーストラリア先住民との生活		拜田 清 (和洋女子大学教授)	
3.	4/29	海外留学における学びのプロセスと成果 ～なぜ留学を通して人は成長するのか? [メディア授業 (リアルタイム配信型)]		高城 宏行 (玉川大学教授)	
4.	5/13	English Study Methods to Prepare for Your Study Abroad ～留学のための英語勉強法		安河内 哲也 (東進ハイスクール英語講師兼一般財団法人実用英語推進機構代表理事)	
5.	5/20	第2～4回振り返り及び海外留学の方法と選び方について		仲谷 ちはる	
6.	5/27	「自文化」理解の重要性 [メディア授業 (オンデマンド型)]		藤吉 大介 (東京都立産業技術高等専門学校准教授)	
7.	6/3	南太平洋ツバルの暮らし ～文化人類学的思考のスズメ [メディア授業 (オンデマンド型)]		橘 広司 (金城学院大学教授)	
8.	6/10	海外で住むということ、コミュニティの中の共有 [メディア授業 (リアルタイム配信型)]		ホア 紀子 (アデレード日本語補習授業校教員兼 Educator, Mt Barker Waldorf School Kindergarten)	
9.	6/17	海外留学がもたらす人生への影響 ～異文化での学び		中村 八千代 (特定非営利活動法人ユニカセ・ジャパン理事長)	
10.	6/24	第6～9回振り返り及び海外留学における安全対策と危機管理について		仲谷 ちはる	
11.	7/1	留学のための異文化理解 ～違いを認め、尊重し合う社会を目指して		吉野 康子 (東京家政大学特任准教授)	

12.	7/8	海外留学を通して、プロフェッショナルマインドが育つだけでなく、新しい視点で自分と自分の文化を深く知るきっかけとなる！	オースティン・オーガー (APTIM 代表取締役)
13.	7/15	世界の日本語教育の概況とことばを学ぶ意義	二瓶 知子 (明治大学文学部兼任講師)
14.	7/22	第 11～13 回振り返り及びまとめ	仲谷 ちはる

#### 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)

毎回の講義出席の確認方法は、初回の授業で説明する。

また、授業中はディスカッションを通じて意見交換するが、授業時間外は Oh-o! Meiji やメールなどで意見交換や情報提供を行う。

この科目はメディア授業併設科目として開講される。原則、和泉キャンパスでの対面受講とする。所属キャンパスが和泉以外である等のやむを得ない事情の場合は、オンライン受講も認める。以下のいずれかの方法で履修登録を行うこと。学期途中での変更 (対面からオンラインまたはオンラインから対面) は、いずれも認めない。以下は履修上の注意。

##### 【対面での受講を希望する場合】

和泉キャンパス開講の講義を履修登録し、指定の教室で授業に参加すること。

ただし、第 3 回はメディア授業 (リアルタイム配信型)、第 7 回・第 12 回はメディア授業 (オンデマンド型) で実施する。

##### 【オンラインでの受講を希望する場合】

メディア授業科目として開講される講義を履修登録すること。

第 7 回・第 12 回を除くすべての授業回を、メディア授業 (リアルタイム型) で実施する。

受講場所を問わないが、視聴端末及び安定した通信環境等を各自で準備すること。なお、メディア授業科目により修得する単位は、卒業要件として修得すべき単位数のうち、60 単位を超えないものとされており、本科目は 60 単位の制限に含まれる。

ペアワーク・グループワークでのディスカッションや発表を行う場合には、原則、Zoom のカメラをオンにすること。

#### 準備学習 (予習・復習等) の内容 (Preparation and Review)

授業の予習として、毎回事前に配布する講義資料を熟読し、関連ニュース等を調べておくこと。

授業では、学生同士の積極的な議論や教員との質疑応答を期待するので、授業で扱う各種テーマに対する自分自身の意見や考えを整理しておくこと。

授業の復習として、各回の講義内容や討論をもとにした振り返りのレポート (リアクションペーパー) を毎週作成すること。また、自身のノート等を見返し理解を深めること。

#### 教科書 (Textbook)

特に定めないが、参考書を読むことを推奨する。

#### 参考書 (Reference)

Benson, P., Barkhuizen, G. Bodycott, P., & Brown, J. (2013). *Second Language Identity in Narrative of Study Abroad*. Springer.

『日本人が世界に誇れる 33 のこと』(2012) ジャーマン・ルース・マリー 著 (あさ出版)

『信じる! 伝える! 実現する!』(2015) 齋藤佳子 著 (宝島社)

『やっぱりすごいよ、日本人』(2015) ジャーマン・ルース・マリー 著 (あさ出版)

『異文化理解力』(2015) エリン・メイヤー 著 (英治出版)

『日本人がいつまでも誇りにしたい 39 のこと』(2018) ジャーマン・ルース・マリー 著 (あさ出版)

### 課題に対するフィードバックの方法 (How to provide Feedback to assignments)

毎回のリアクションペーパーの講評は、ゲスト講師へ共有し、フィードバックコメントが届き次第、Oh-o! Meiji より公開・通知する。

最終講義日に期末レポートについて説明し、個別の講評は Oh-o! Meiji より公開・通知する。

### 成績評価の方法 (Grading and Evaluation)

以下の諸点により、最終評価を行う。

(1) 授業における貢献度：30%

※授業の中で自主的に課題を発表し、積極的に発言をすることを評価する。

(2) リアクションペーパー：30%

※授業内容や討論をもとにした振り返りのレポートを毎週作成すること。

(3) 期末レポート：40%

※本講座で学んだことをもとに、レポートをまとめること。

※対面式での試験は行わない。

### その他 (Other)

教員への質問・相談窓口として、専用メールアドレスを履修者に通知する。

本講座とあわせて、「日本社会・文化理解講座」(秋学期 火曜日 4限)を履修することを強く勧める。

他人のレポートやオンライン上の情報をそのままコピーして提出しないこと。また、病気やその他のやむを得ない事由により、授業当日に課題の提出ができない場合、事前に受け付ける。

外部講師により、対面型ではなく、オンデマンド型やリアルタイム型で動画配信を行う授業日については、受講方法を別途 Oh-o! Meiji にてお知らせを配信する。

明治大学(国際教育センター)が企画する海外留学に関するイベント ([https://www.meiji.ac.jp/cip/event\\_schedule/event\\_schedule.html](https://www.meiji.ac.jp/cip/event_schedule/event_schedule.html)) や、留学のための各種相談 (<https://www.meiji.ac.jp/cip/preparation/counseling/counseling.html>) の利用を強く勧める。また、学内外の国際交流や留学に関する情報収集を積極的に行うこと。

科目名 Class Subject Name	配当学年 Year	開講期 Class Dates	単位数 Credits	開講キャンパス Campus	担当者 Faculty Member
アカデミック英語集中講座 (留学前)	1～4年	春前 (S1)・ 水・5	1単位	和泉	横川 綾子

#### 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)

##### Course Summary

In this course, students will learn how to build strong academic English skills for studying abroad experiences by learning effective strategies to attend classes and gain a deeper understanding of Japanese culture and society from an international point of view.

##### Course Objectives

By the end of this course, students will be able to:

- 1) understand effective strategies for studying abroad.
- 2) participate confidently in academic discussions.
- 3) deliver a well-organized presentation in English.
- 4) recognize key cultural and social issues in Japan.
- 5) write a well-structured academic essay.

#### 授業内容(Course Contents)

Note: The schedule may change based on how many students join and their English proficiency levels.

##### Week 1: Study Tips

Lecture: Learn about what is expected in classes at English-speaking universities.

Discussion: Talk about possible challenges in overseas academic settings.

Activity: Create a personal study plan with effective study methods.

##### Week 2: Group Discussion

Lecture: Discover strategies for taking part in academic debates, asking questions, and responding to others.

Activity: Practice group discussions about controversial topics, using the techniques from the lecture.

Weekly Assignment 1: Write a 200-word reflection on the strategies you used in the group discussions.

##### Week 3: Presentation

Lecture: Learn how to structure a presentation, using effective delivery techniques.

Activity: Give a 3-minute presentation about any topic of your choice.

Weekly Assignment 2: Write a 200-word reflection on your 3-minute presentation.

##### Week 4: Social Issues in Japan

Lecture: Explore key issues in modern Japan (e.g., work culture, gender roles).

Activity: Discuss how these issues are seen inside and outside of Japan.

Weekly Assignment 3: Write a 400-word summary of one social issue in Japan.

##### Week 5: Cultural Topics in Japan

Lecture: Learn effective ways to clearly explain cultural topics.

Activity: Practice explaining a Japanese cultural topic in your own words.

Weekly Assignment 4: Make a 1-minute video presentation about one Japanese cultural topic.

##### Week 6: Online Communication

Lecture: Understand how to communicate effectively online.

Activity: Take part in a simulated online forum.

Weekly Assignment 5: Post a well-structured comment in the online forum.

## Week 7: Short Essay

Lecture: Discover key strategies for writing persuasive academic essays.

Activity: Examine sample essays to understand what makes them strong or weak.

Short essay: Write an 800-word short essay on a topic of your choice.

### 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)

#### English Proficiency Level Requirement

This course uses clear, simple English. To actively join in class discussions and give presentations, you should have English skills at about TOEFL iBT 61+, IELTS 5.5+, or TOEIC L&R 685.

#### Attendance Policy

If you miss three or more classes without a valid, documented reason, you will receive a failing grade.

### 準備学習 (予習・復習等) の内容 (Preparation and Review)

#### Preparation

Please finish your weekly assignments and think about the main ideas we cover each week.

#### Review

After each class, look over the materials and discussions again to strengthen your understanding. Try to use what you learn in your assignments, presentations, and essays.

### 教科書 (Textbook)

There is no required textbook. All necessary reading materials will be provided by the instructor as needed.

### 参考書 (Reference)

The instructor will recommend specific references throughout the course. These are not mandatory but can provide additional insights and support your learning.

### 課題に対するフィードバックの方法 (How to provide Feedback to assignments)

Feedback will be provided verbally in class or through comments on the learning management system Oh-o! Meiji. Students can access their feedback and track their progress through the platform.

### 成績評価の方法 (Grading and Evaluation)

Contribution to Class: 20%

Weekly Assignments 1-5: 50%

Short Essay: 30%

### その他 (Other)

This course is designed for students who have been accepted for mid- to long-term study abroad in English-speaking countries and aims to enhance the English proficiency necessary for academic study. Therefore, it is not intended for students without a plan for study abroad, wishing to improve their general English proficiency (e.g., business English).

科目名 Class Subject Name	配当学年 Year	開講期 Class Dates	単位数 Credits	開講キャンパス Campus	担当者 Faculty Member
海外テーマ特化型研修 海外語学研修（全言語） 海外実習	1～4年	夏季・春季 （集中）	2単位	その他	国際連携機構 特任教員
授業の概要・到達目標（Course Summary and Objectives）					
<p>《概要（Course Summary）》</p> <p>明治大学国際教育センターが実施ならびに選定する海外大学等での専門科目や文化講座、語学研修またはキャリア研修等の実習プログラムに参加し、派遣先の社会状況における現状および異文化理解の基礎を学ぶとともに実践的な外国語コミュニケーション能力の向上を図る。</p> <p>《到達目標（Course Objectives）》</p> <p>グローバル化が進展する中で、国際的に活躍しうる人材に求められる能力は多様化・高度化している。本講座は、海外大学等での集中講座・研修、実習活動を通じて、より高度な外国語運用能力、異文化対応能力、問題発見・解決能力等を養うことを主たる目標とする。</p>					
授業内容(Course Contents)					
<p>夏季及び春季休暇を利用した海外大学等（海外大学が実施する国内講座等含む）における文化講座、語学研修または海外キャリア実習等を行う。プログラムによって、フィールドワークや文化交流活動等の課外活動に参加する機会もある。</p> <p>対象プログラムの詳細については、以下のサイトを確認すること。</p> <p>プログラムの詳細：<a href="https://meijinow.jp/global">https://meijinow.jp/global</a></p> <p>※本学ホームページ：メニュー＞「国際連携・留学」＞「海外留学を希望する方へ」＞「海外留学プログラム」＞「短期留学プログラム（グループ・個人）」＞「Meiji Now Global」</p>					
履修上の注意（Prerequisites and registration requirements）					
<p>対象プログラムには「グループ渡航型」と「個人渡航型」の2種類がある。</p> <p>(1) 「グループ渡航型」とは、明治大学の学生がグループで渡航するプログラム。留学先への往路・復路ともに定められた期日に出発・帰国するため、集団行動が求められる。集団行動による安心感があり、初めて海外留学に挑戦する学生には、グループ渡航型への参加を推奨する。</p> <p>(2) 「個人渡航型」とは、明治大学の学生以外も応募可能なプログラムに、個人で応募し参加するプログラム。留学先への往路・復路は参加者の希望により、長期休暇の範囲内で各自が手配できる。自由度はあるが主体性・計画性を問われるため、海外留学や海外旅行に慣れている学生の参加を推奨する。</p> <p>(3) プログラムの所定の事前学習を必ず受講すること。</p> <p>(4) 単位認定（履修）に関する詳細は、参加者対象のオリエンテーションにて説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・過去に単位認定希望科目を修得している等により、単位認定が認められないことがある。</li> <li>・夏季プログラムは9月卒業の学部生、春季プログラムは3月卒業の学部生への単位認定は行わない。</li> </ul> <p>(5) 参加費用については、プログラム実施機関に確認すること（上記サイト参照）。</p>					
準備学習（予習・復習等）の内容（Preparation and Review）					
<p>プログラムの所定の事前学習・事後学習で参加決定者へ指示する。また、派遣先の歴史、文化、政治、経済等について渡航前に調べ、理解を深めておくこと。</p>					
教科書（Textbook）					
特に定めない。					

## 参考書 (Reference)

『ネイティブ英語なんて必要ない!』吉田ちか 著 (角川マガジズ)

『やっぱりすごいよ、日本人』ルース・ジャーマン 著 (あさ出版)

『英語で説明する日本の文化—これ一冊で!日本のことが何でも話せる』植田一三・上田敏子 著 (語研)

『日本のことを1分間英語で話してみる』広瀬直子 著 (KADOKAWA)

その他の参考図書等については、以下のサイトを確認すること。

[https://www.meiji.ac.jp/cip/preparation/eng\\_programmes/referencebooks.html](https://www.meiji.ac.jp/cip/preparation/eng_programmes/referencebooks.html)

※本学ホームページ: メニュー>「国際連携・留学」>「海外留学を希望する方へ」>「海外留学プレ・ポスト英語プログラム」>「学習に役立つリンク集・参考図書」

## 課題に対するフィードバックの方法 (How to provide Feedback to assignments)

派遣先からの提出書類、留学報告書などに基づき、必要に応じて実施する。

## 成績評価の方法 (Grading and Evaluation)

以下の諸点により、総合評価を行う。

### (1) 事前学習 (10%)

※出発前に指定のオンデマンド講義を視聴し、指定期間内に課題を提出する。

### (2) 派遣先からの評価 (70%)

※正当な事情により時間数を満たせずに修了証が提出できない場合は、その他に積極的に研修に参加した証拠の提出を求める。

### (3) 事後学習 (20%)

※帰国後、指定期間内に課題を提出する。

## その他 (Other)

明治大学国際教育センター主催の海外研修プログラム (対象プログラム) は以下の通り。

### 【テーマ特化型研修】

#### ・グループ渡航型

ベトナム国家大学ホーチミン校 (ベトナム)、カリフォルニア大学デービス校 (アメリカ)、テンプル大学 (アメリカ)、ペンシルベニア大学 (アメリカ)、ケンブリッジ大学コーパスクリスティ校 (イギリス)

#### ・個人渡航型

オックスフォード大学 St Hilda's College (イギリス)、オックスフォード大学ジーザス・カレッジ (イギリス)、サンフランシスコ州立大学 (アメリカ)

### 【海外語学研修】

#### ・グループ渡航型

アデレード大学 (オーストラリア)、ユーコン大学 (カナダ)、ブリティッシュ・コロンビア大学 (カナダ)、ビクトリア大学 (カナダ)、オークランド大学 (ニュージーランド)、エンデラン大学 (3・6週間、オンライン) (フィリピン)、シェフィールド大学 (イギリス)、ヨーク大学 (カナダ)、マクマスター大学 (カナダ)、ウィーン大学 (オーストリア)、リヨンカトリック大学 (フランス)、バルセロナ自治大学 (スペイン)、国立台湾師範大学 (台湾)

#### ・個人渡航型

チチェスターカレッジ (イギリス)、イーストサセックス・カレッジ (イギリス)、LSI ポーツマス英語研修 (イギリス)、Kings オックスフォード英語研修 (イギリス)、トロント大学 (カナダ)、オタワ大学 (カナダ)、CCEL クライストチャーチ英語研修 (ニュージーランド) EF (Education First) (世界各国)、ワシントン大学 (アメリカ)、フィッシャーカレッジ (アメリカ)、マウント・セント・ビンセント大学 (アメリカ)、ディーキン大学 (オーストラリア)、デラサール・アラネタ大学 (フィリピン)

## 【海外実習】

- ・グループ渡航型

タイ・ボランティア（タイ）、サンフランシスコで学ぶソーシャルイノベーションプログラム（アメリカ）、海外キャリア研修（ベトナム、オーストラリア、タイ）、UTM Study Tour（マレーシア）、FPT Study Tour（ベトナム）、タイ言語&文化プログラム（タイ）

- ・個人渡航型

アメリカ・グローバルキャリアプログラム（アメリカ）、マレーシア・グローバルビジネスプログラム（マレーシア）

## 【海外実習】

- ・グループ渡航型

タイ・ボランティア（タイ）、サンフランシスコで学ぶソーシャルイノベーションプログラム（アメリカ）、海外キャリア研修（ベトナム、オーストラリア、タイ）、UTM Study Tour（マレーシア）、FPT Study Tour（ベトナム）、タイ言語&文化プログラム（タイ）

- ・個人渡航型

アメリカ・グローバルキャリアプログラム（アメリカ）、マレーシア・グローバルビジネスプログラム（マレーシア）

科目名 Class Subject Name	配当学年 Year	開講期 Class Dates	単位数 Credits	開講キャンパス Campus	担当者 Faculty Member
長期海外実習 (国連ユースボランティア・ プログラム)	2～4年	秋学期	8単位	その他	三牧 純子

#### 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)

##### 《概要 (Course Summary)》

本講座は、海外実務研修を体験する「短期海外実習」、「海外実習」の継続・発展型として実施される、海外でのより長期の実践的学習（実務実習）を行う講座である。

参加学生は、世界の平和と開発を支援するための国際機関である「国連ボランティア計画（UNV: United Nations Volunteers）」を通じて、開発途上国における同機関事務所で実務実習を行うことにより、国際協力や開発の基礎知識や異文化に対する理解力・適応力を養うことを主たる目的とする。

なお、本講座の学習効果を高めるために、派遣前研修や派遣期間中の実務教育を行う「海外実習課題研究」を同時に履修することを履修条件とする。

##### 《到達目標 (Course Objectives)》

参加学生は、開発途上国での様々な課題を改善するための多様なボランティア活動に従事する。この活動を通じて、国際開発の基礎知識や異文化に対する理解力、さらに、業務遂行に必要な外国語コミュニケーション力や課題解決力などのグローバル人材として必要な素養を養うことを目指す。

#### 授業内容(Course Contents)

国連ボランティア計画（UNV）のコーディネートにより、約5ヵ月間、主に開発途上国の国連諸機関に派遣される。派遣先国はアジア、アフリカ、欧州、大洋州の各国いずれか。

具体的には、開発途上国の国連事務所、政府機関またはNGOなどが実習先となる。ウェブサイトやポスター作成などの広報活動やプロジェクト運営支援などを通じて、教育、保健衛生、環境、ジェンダー、貧困削減などの活動に携わる。1日の勤務時間は、週5日の約6時間程度（週30時間程度）。現地での滞在先は、原則として、UNVの各現地オフィスが指定（推奨）する民間アパートである。

#### 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)

##### (1) 受講対象

国連ユースボランティアの選考を通過した学生のみ。

##### (2) 履修要件

本学の外国留学に関する広報活動及び本プログラムに係る各種調査等の協力を卒業後も含めて協力の同意ができること。

なお、「海外実習課題研究（国連ユースボランティア・プログラム）」との同時履修となる。

##### (3) 費用

渡航費や一定の現地生活費等を含む参加費用は、明治大学からUNVを通じて支給される。

国内研修に係る費用、海外旅行保険、予防接種および出入国のために必要な費用は自己負担となる。

##### (4) 派遣日程

2025年9月中旬～2026年2月（渡航日及び帰国日は、派遣国により異なる。）

プログラムの詳細については、[https://www.meiji.ac.jp/cip/chouki\\_kaigaijissu/](https://www.meiji.ac.jp/cip/chouki_kaigaijissu/)を必ず確認すること。

準備学習（予習・復習等）の内容（Preparation and Review）
<p>&lt;派遣が決定次第&gt;</p> <p>まず派遣機関や派遣国について自身で調べること。</p> <p>&lt;研修中&gt;</p> <p>毎週業務報告書を作成・提出する。そして担当教員からのフィードバックを踏まえ、自身の活動を継続的に改善してゆくことが求められる。</p>
教科書（Textbook）
特に定めない。
参考書（Reference）
特に定めない。
課題に対するフィードバックの方法（How to provide Feedback to assignments）
個別にフィードバックを行う。
成績評価の方法（Grading and Evaluation）
<p>以下の諸点により、最終評価する。</p> <p>(1) 業務報告書（Weekly Report）の評価：50%</p> <p>(2) 最終レポート及びプレゼンテーション：50%</p>
その他（Other）
<p>・派遣国：</p> <p>治安が比較的良く政情も安定しており、国連職員が単身赴任ではなく家族と共に転勤が可能な地域と指定している。</p> <p>ただし、外務省海外派遣安全情報の危険情報レベルにおいて、派遣国の危険レベルが「レベル1」以下でなければ、原則、派遣は行わない。また、同レベルが「レベル2」に上がった場合には、原則、帰国となる。</p> <p>・語学やスキル：</p> <p>各派遣先で必要とされる語学や ICT スキルなども必要に応じて習得すること。</p>

科目名 Class Subject Name	配当学年 Year	開講期 Class Dates	単位数 Credits	開講キャンパス Campus	担当者 Faculty Member
海外実習課題研究 (国連ユースボランティア・プログラム)	2～4年	秋学期	4単位	その他	三牧 純子

#### 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)

##### 《概要 (Course Summary)》

本講座は、国連ユースボランティア・プログラムの派遣前に、長期海外実習に特化した課題研究（渡航前の明治大学での事前学習及び関西学院大学での集合型事前研修）を実施するものである。そして、国連ユースボランティアの参加学生が、活動に必要なスキルや関連知識の習得を通じて、開発途上国の現場の状況を把握し、柔軟に対応できる能力の育成を目的とする。

また、活動の終了後の事後学習を通じて、現場での経験をレポートに取りまとめるとともに、報告会での口頭発表を行う。これにより、国連ユースボランティアで得られた知見を明治大学の学生に共有し、今後の明治大学のグローバル人材の育成に貢献する。

なお、本講座の学習効果を高めるために、本課題研究の内容に沿った海外での長期の実務実習を行う「長期海外実習」を同時に履修することを履修条件とする。

##### 《到達目標 (Course Objectives)》

国際協力や開発における基礎知識やスキルを身につけるとともに、異文化に対する理解力・適応力の重要性や、多様な価値観を持つ人々との人間関係及びチームワーク構築の重要性、さらに自己の職業観を認識し、日本国内に留まらず、グローバルな舞台で活躍できる素地を醸成する。

#### 授業内容(Course Contents)

##### (1) 事前学習 (100分×全2回)

第1回 (2025年7月中旬実施) は、海外での長期の実務実習に参加するための準備として、現地の文化、滞在方法、プロジェクトの目的や現地活動の概要等について理解する。

第2回 (2025年9月上旬実施) は、日本の援助機関の役割と戦略、担当業務に関する基礎知識、海外生活や渡航時の注意点、現地での安全対策などを学ぶ。

##### (2) 国連ユースボランティア事前研修 (集合型)

2025年7月下旬～8月上旬、8月下旬～9月上旬に、関西学院大学が東京および兵庫県において実施する合計10日間の研修の講座を他大の国連ユースボランティア派遣学生とともに受講する。

##### (3) 事後学習 (100分×全1回)

本講座の最終総括を行う。課題研究で学んだ理論と5か月間の実践を踏まえ、3月上旬に最終レポートにまとめ、3月に口頭報告する。また、関西学院大学が主催する報告会において、口頭報告を行う。さらに、明治大学および関西学院大学の関連ウェブサイトにおける広報記事作成への協力を行う。

<b>履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)</b>
<p>(1) 受講定員 選考を通過した学生のみ。</p> <p>(2) 履修要件 「長期海外実習」において実施する長期の海外実習プログラムへの派遣・参加が決定した学生を対象とするため、応募要件や語学レベル等については、「長期海外実習」における基準に準拠する。 なお、「長期海外実習 (国連ユースボランティア・プログラム)」との同時履修となる。</p> <p>(3) 費用 補強研修・派遣前研修費として、5万円程度の負担が必要。また、関西学院大学への交通費及び宿泊費等の実費が必要。国連ユースボランティア・プログラムへの参加費用として、予防接種費の実費 (派遣国により異なる)、海外旅行保険および出入国のための諸費用が別途必要となる。</p>
<b>準備学習 (予習・復習等) の内容 (Preparation and Review)</b>
<p>事前に配布する「2025年度派遣の手引き (明治大学)」を読み、不明な部分があれば、授業で質問すること。 事前学習及び課題研究の復習として、配布資料や参考書の該当箇所および国連開発計画 (UNDP) のHPに目を通すこと。</p>
<b>教科書 (Textbook)</b>
関西学院大学指定の教科書
<b>参考書 (Reference)</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・『国際協力を学ぶ人のために』内海成治・桑名恵・杉田映理 (世界思想社)</li> <li>・国連開発計画 (UNDP) のHP</li> </ul>
<b>課題に対するフィードバックの方法 (How to provide Feedback to assignments)</b>
個別にフィードバックを行う。
<b>成績評価の方法 (Grading and Evaluation)</b>
<p>以下の諸点により、最終評価を行う。</p> <p>(1) 事前学習及び事後学習における貢献度：20% ※授業の中で自主的に課題を発表し、積極的に発言をすることを評価する。</p> <p>(2) 最終レポートによる評価：80%</p>
<b>その他 (Other)</b>
<p>「課題研究」において、以下の点を守ること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「国連ユースボランティア」に派遣されるにあたり、全ての講義に出席が必要。やむを得ない事情で授業に参加できない場合は、必ず事前に申し出ること。</li> <li>・講義への遅刻、講義中の居眠りやスマートフォンの私的利用などは厳禁。</li> <li>・発言が求められる場面では、率先して発言するなど積極的に参加をすること。</li> <li>・国際協力事例を通じてサステナブルな開発について学ぶことを目的とする、春学期開講科目「グローバル・シティズンシップ入門B」の受講が望ましい。</li> </ul>

科目名 Class Subject Name	配当学年 Year	開講期 Class Dates	単位数 Credits	開講キャンパス Campus	担当者 Faculty Member
アカデミック英語集中講座 (留学後)	2～4年	秋前 (F1)・ 火・4	1単位	駿河台	横川 綾子

#### 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)

##### Course Summary

In this course, students who have completed mid- to long-term study abroad will work on maintaining and improving their English proficiency, while enhancing their ability to explain experiences and expertise.

##### Course Objectives

By the end of this course, students will be able to:

- 1) reflect on their study abroad experiences and identify areas for improvement in their English proficiency.
- 2) enhance their spoken fluency and deliver clear, concise presentations on personal and academic topics.
- 3) explain specialized topics effectively to non-expert audience.
- 4) participate actively in online discussions, demonstrating critical thinking and clear expression.
- 5) synthesize discussions and reflections into a well-structured, persuasive written essay.

#### 授業内容(Course Contents)

Note: This schedule may change based on the number of students and their English proficiency levels.

##### Week 1: Study Abroad Experiences

Course Overview: Understand the course objectives, structure, and grading criteria.

Group Discussion: Share your study abroad experiences and discuss challenges in keeping up your English skills.

Activity: Identify key areas for improving your English communication.

##### Week 2: Fluency in Speaking

Lecture: Learn techniques to maintain and boost your spoken English fluency.

Activity: Try the 4/3/2 fluency exercise to practice speaking under time pressure.

Presentation: Give a 2-minute talk about a key moment from your study abroad.

Weekly Assignment 1: Submit a 200-word reflection on your 2-minute presentation.

##### Week 3: Expertise in English

Lecture: Discover how to clearly explain academic topics to diverse audiences.

Activity: Practice explaining your own academic field to a non-expert listener.

Weekly Assignment 2: Submit a short video introducing your field of expertise.

##### Week 4: Group Discussion

Lecture: Find out best known practices for contributing to group discussions.

Activity: Take part in a simulated discussion on a chosen topic.

Weekly Assignment 3: Post a well-developed comment to the class discussion.

##### Week 5: Cultural Awareness

Lecture: Explore cultural adaptation and the idea of reverse culture shock.

Activity: Reflect on cultural differences you encountered during or after study abroad.

Weekly Assignment 4: Submit a well-structured summary of your cultural experiences.

## Week 6: Short Essay

Lecture: Learn how to transform basic ideas into a short, structured essay.

Activity: Review your previous comment to the discussion and use them to write a short essay.

Weekly Assignment 5: Write a 400-word short essay that integrates ideas from the discussion.

*No class during Meidai Festival Week*

## Week 7: Presentation

Individual Presentation: Give a 5-minute talk on a topic from the course, using insights from your study abroad experiences, area of expertise and cultural awareness.

Peer Feedback and Reflection: Exchange constructive feedback on the content and delivery to each other.

履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)

### English Proficiency Level Requirement

This course uses clear, simple English. To actively join in class discussions and give presentations, you should have English skills at about TOEFL iBT 61+, IELTS 5.5+, or TOEIC L&R 685.

### Attendance Policy

If you miss three or more classes without a valid, documented reason, you will receive a failing grade.

準備学習 (予習・復習等) の内容 (Preparation and Review)

### Preparation

Please finish your weekly assignments and think about the main ideas we cover each week.

### Review

After each class, look over the materials and discussions again to strengthen your understanding. Try to use what you learn in your assignments, presentations, and essays.

教科書 (Textbook)

There is no required textbook. All necessary reading materials will be provided by the instructor as needed.

参考書 (Reference)

The instructor will recommend specific references throughout the course. These are not mandatory but can provide additional insights and support your learning.

課題に対するフィードバックの方法 (How to provide Feedback to assignments)

Feedback will be provided verbally in class or through comments on the learning management system Oh-o! Meiji. Students can access their feedback and track their progress through the platform.

成績評価の方法 (Grading and Evaluation)

Contribution to Class: 20%

Weekly Assignments 1-5: 50%

Presentation: 30%

その他 (Other)

This course is designed for students who have completed mid- to long-term study abroad in English-speaking countries and aims to enhance their English proficiency. Therefore, it is not intended for students without study abroad experiences, wishing to improve their general English proficiency (e.g., business English).